



学校通信

夕陽丘

第25号



【 校長挨拶 】

一ヶ月が経ちました

校長 杉山 友重

皆さん、こんにちは。校長の杉山です。

前校長の西出博行先生が定年退職され、後任として赴任いたしました。よろしくお願いいたします。

着任してからあわただしく一ヶ月が経ちました。

4月1日朝、門をくぐりそして校舎を仰ぎ見て、夕陽丘高校の生活がいよいよ始まるという使命感と、おそらく私の教員生活最後の勤務校になるだろうという思いが重なり、身の引き締まる思いを強く持ちました。8日朝の始業式で初めて生徒たちと対面し、緊張の中で私の思いを話しました。生徒たちにはこれからいろいろな話をしていきたいと思っています。午後には、第66期生の入学式が挙行され、夕陽丘高校の校長として初めて新入生の入学許可を宣言しました。いくつかのクラブのインターハイ予選の応援にも行きました。クラブに取り組む姿勢や試合に臨む生徒たちの表情も観察できました。

4月25日の創立記念日には、本校の7期生で大阪弁によるおはなし会を主宰され活躍されている たなかやすこ さんに、「夕陽丘への想い - 私の口縄坂 - 」の演題で講演していただきました。世代は離れていますが、たなかさんから心に沁みる話をしていただき、卒業生の夕陽丘高校への想いを生徒たちに伝えていただきました。

4月27、28日には1年生の宿泊研修に付添いました。研修の最後には、生徒と教員全員で校歌を合唱しました。大きな会場に響く歌声は素晴らしいもので、生徒と教員との一体感に感激しました。

このようにわずか一ヶ月でありながら様々な人との出会いや出来事があり、その中で夕陽丘高校の歴史と伝統の素晴らしさを実感するとともに、新たな歴史を築いていく責任の大きさを痛感しているところです。

それではこれから学校経営をどうしていくのかということになりますが、平成23年度より本校の教育目標である「一人ひとりの進路希望を実現できる学力を身につける」、「自ら考え行動できるように、自主自律の心を養う」、そして「国際交流体験を通して、自己発見と他者理解を深める」の3つの柱に、新たに「国内最高レベルの音楽教育を推進する」を加えて4本柱とし、これまでの取組みをさらに深化、発展させながら、新たな展開を図っていきたく考えています。

その一つが大阪府の重点事業である「使える英語プロジェクト事業」English Frontier High Schools です。本校は24校の研究指定校の1校に選ばれました。この事業を活用して、生徒の英語運用能力を高め、英語のコミュニケーション能力を向上させるとともに、進路実現に必要な英語力の向上を図っていきます。

これからの夕陽丘高校の教育にご期待ください。

発行 〒543-0035 大阪市天王寺区北山町 10-10 大阪府立夕陽丘高等学校

TEL 06-6771-0665 FAX 06-6771-6267 E-mail: z-yuhigaoka@sbox.osaka-c.ed.jp

ホームページ <http://www.osaka-c.ed.jp/yuhigaoka>

携帯サイト <http://www.osaka-c.ed.jp/yuhigaoka/keitai/keitai.htm>

(題字 森 敏行先生)

自分に正直に最善の決断を

さあ、いよいよ高校生活最後の学年を迎えました。誰もが最も悩むときであり、誰もが最も飛躍するときでもあります。

3年生は、これから進路実現に向けての決断が迫られます。10年後、20年後、自分が何をしているか。何がしたいのか。自分に何が向いているか。何ができるのか…。そう簡単な問題ではありません。こうしたいと思うけれども、それが可能か。その力が自分にあるか。希望通りの道を選ぶべきか、失敗しないことを優先するか。そもそも何がしたいのか自分でもよくわからない…。悩みは尽きないでしょう。

私は3年前、61期生の担任をしました。そのときの経験からいうと、多くの生徒がそれなりに希望を実現してってくれましたが、最後に迷いが出たり、後悔が残ったり、そのために1年、2年、まわり道（浪人）せざるをえなかった生徒もいました。いろんなケースがありますから、一概にはいえませんが、目標を低く設定してしまった場合に、不具合が起こることが多いように感じます。

「目標を高く」ということは、何も「国公立をめざせ」「難関校に挑戦しろ」ということではありません。「本当はここをめざしたいけど、入りやすいところにしておこう」「自分としてはそうしたいけれども、失敗したらいやだ」というような迷いが、あまりいい結果を生まないということです。

ここはひとつ、自分に正直になることが大切だと思います。最初から約束された道などありません。うまくいくかもしれないし、うまくいかないかもしれない。しかしそれは、どう転ぶかわからない、すべてが偶然だということではありません。自分のやってきたこと、これからやっていくこと、それに応じて結果が生みだされます。そうした関係についての自分の判断や決意も含めて、「自分に正直になる」ことが大切なのです。

「自分に正直に」定めた目標であれば、少々の苦労はいといたしません。切れそうになる気持ちをつないでいくこともできるでしょう。そして、達成（合格）できれば素直に喜び、うまくいなくても最後まで努力し続けることができます。目標達成が、1年後、2年後になることなど、たいした問題でなくなります。浪人を勧めているわけではありませんが、浪人を恐れる必要もないということです。

みなさんは、ここまでとてもいい高校生活を送ってきました。少し勉強が足りないのはたしかですが、いやいや勉強してきたこともないでしょう。クラブや学校行事に青春の血を燃やし、それなりにまじめに勉強してきたわけですから、“のびしろ”はまちがいにあります。それを活かすことができるかどうか、いま、みなさんひとりひとりに問われているのです。最も大切な時期に最善の決断をされることを願っています。

学ぶ力と楽しむ力

2年生は、4月28日の「校外学習」で、淡路島五色町へ行きました。明石海峡大橋を渡り、淡路SAで休憩の後、目的地に向かいました。バスの中では各クラス、特活委員が中心となり、うです。出発して2時間30分、目的地のウェルネスパーク五色に到着しました。各クラス5つの班に分かれてバーベキューをし、その後、こいのぼりの泳ぐ芝生広場でクラスごとレクリエーションを楽しみました。天候にも恵まれ、買い出しや火起こし、調理そしてクラスレクなど



を分担し、それぞれが役割を果たし充実した行事となりました。

司馬遼太郎が書いた「菜の花の沖」の「高田屋嘉兵衛」は、この五色町出身でウェルネスパークに記念館があります。高田屋嘉兵衛は五色町の貧しい農家に生まれましたが、海に対する思いは強く、22歳の時に神戸に出て船乗りとなります。その後卓越した航海技術で信用を掴み、28歳でその当時国内最大級の船を建造し、北海道の函館を商売の拠点としました。嘉兵衛は商売だけではなく、幕府の要請を受け北方の航路を発見したり、新たな漁場を開くなどの活躍もしました。また、ロシアとの通商交渉のもつれに端を発した双方の誤解から始まった事件を、自らも囚われの身となりつつも、相手の副艦長と同じ部屋で寝起きし「ひと冬中に二人だけの言葉をつくって」交渉、粘り強く信頼関係をつくり和解を成し遂げました。作家司馬遼太郎は、嘉兵衛をこよなく愛し、「今でも世界のどんな舞台でも通用できる人」と称えています。

2年生となった君達の夢(目標)はなんですか?卒業後の進路の実現はその一つだと思います。その目標を達成するために今何をしなければならぬか。まずは、自分は何をしたいのか?あるいは、何に興味をもっているのか?何が好きなのか?自分の気持ちを探ってみる事です。その為には、色々な事を「見、聞き、感じる」ことが必要です。そうした経験の中から「自分」を発見できるのではないのでしょうか?今この時期に体験するに事に無駄な事はありません。嫌な事も良い事も全部、これからの人生の肥しとなります。しかし、それは受け身ではなく、自らの能動的に動き「見、聞き、感じる」ほうがより大きなものになるでしょう。一つ一つの体験を大切にしてください。

そういう意味で、2年生での学年目標を、「進路実現への扉を開き、高校生活の充実を図るため、自ら学ぶ力と楽しむ力を培う」としました。この二つの力を身につけ、来年へつながる1年にしましょう。

【第一学年】より

第一学年主任 岩元 健

「伝統」を受け継ぐ

喜びと希望に満ち溢れて入学し、一ヶ月が過ぎました。夕陽丘高校での生活はどうか?学校生活に慣れましたか?新しい仲間との関係はうまく築けそうですか?授業について行けていますか?新しい環境でスタートを切って、勉強に部活動にしっかり取り組み、頑張ろうと気を引き締めている人も多いことでしょう。この夕陽丘で、多くの知識を修得し豊かな経験を積み、厚みのある人格を形成してくれることを願っています。そのためには、自らが意欲を持って、何事にも積極的に取り組むことが大切です。知恵と創意を働かせ日々の学習に励んで下さい。また、自分に足りないものには謙虚さを持って取り組んで下さい。

さて、君たちがこの夕陽丘へ入学して、幾度となく、「百年を超えるこの夕陽丘の伝統」とか、「夕陽丘の生徒としての誇りと自覚」といったことを聞いたと思います。この「伝統」とはどのようなものでしょうか?実は、この「伝えて統^すべる」と書く伝統は、国語辞典では『ある社会や集団で代々伝えられ形作られてきた独特の風習・傾向・様式・しきたりなど』となっていますが、そもそも明治以降に作られた言葉で、本来は「伝燈」と書かれ仏教の教え「自燈明・法燈明」からきた言葉です。「真理と自らが正しい真理を追究したいと思う志をともしびなさい」という教えから、真理を教え伝えることを「伝燈」というようになったそうです。では、具体的に「燈明・ともしび」を絶やさず伝えていくための工夫とは何でしょうか?それは、「毎日、油を差すこと」です。油を絶やすとともしびは消えてしまいます。それが、「油断」です。常に、新しい「油」つまり新しいエネルギーを注がなければ、燈は維持できません。その新しい油とは、日々の生活の中で常に自らを向上させていこうとする努力であり、あきらめず希望に向かって進んでいく姿勢です。これからの高校生活、「油断」せず、夕陽丘のともしびを消すことなく、立派に成長することを願います。

【進路指導部】より

2011(平成 23)年度入学試験合格状況 (普通科7クラス、音楽科1クラス)

** 国公立大学 **

普通科	現	浪	計	音楽科	現	浪	計
大阪教育大学	1		1	東京芸術大学	3	1	4
奈良女子大	1		1	大阪教育大学	10		10
和歌山大学	3	1	3	高知大学	1		1
岡山大学		1	1	京都市立芸術大学	5	1	6
島根大学	2		2	愛知県立芸大	3		3
高知大学	1	1	3	計	22	2	24
信州大学	1		1				
奈良県立医科大学	1		1				
大阪市立大学	1	1	2				
神戸市外大	2		2				
計	13	4	17				

** 主な短期大学と専門学校 **

普通科・音楽科	現	浪	計
武庫川女子大短大部	7		7
大阪成蹊短大	2		2
常磐会短大	2		0
国立大阪医療センター看護学校	1		1
近畿大学付属看護専門学校	1	1	2
小坂病院看護専門学校	2		2
大阪警察病院看護専門学校	1		1

** 主な私立大学 **

普通科・音楽科	現	浪	計
関西大学	47	14	61
関西学院大学	15	2	17
同志社大学	6	12	18
立命館大学	9	12	21
京都産業大学	3	8	11
近畿大学	80	20	100
甲南大学	6	4	10
龍谷大学	34	2	36
京都女子大学	4	4	8
同志社女子大学	11	4	15
武庫川女子大学	26		26
京都外国語大学	10	3	13
関西外国語大学	12	3	15
畿央大学	10	2	12
摂南大学	6	5	11
桃山学院大学	5	2	7
大阪音楽大学	13	2	15
大阪芸術大学	10	1	11
四天王寺大学	8	1	9
相愛大学	5		5

今年度も昨年度同様、国公立志向が強く、普通科、音楽科あわせての現役合格者は35名と昨年を大幅に上回り、浪人を含めると41名に達しました。国公立大学はいわゆる“偏差値”以上に内容が充実しています。地方の国立大学も視野に入れて進学をもっと積極的に考えてほしいと思います。

難関私大の関関同立は、のべ合格者が117名と昨年を13名下回りました。特に同志社、関学で現役合格が12名減りましたが、これは、例年より国公立一本で受験したが生徒が多かった結果と分析しています。また産近甲龍も9名減になりましたが、実合格者はほぼ同じです。

不況の中、受験回数が減ってきた結果と考えています。

今年も、後期入試まで頑張って志望校に合格したという人が何人もいます。とりわけ国公立大では13名が後期合格です。すべての科目にわたって最後まで授業を大切に地道に努力した現役生は、1月以降もさらに学力が伸びるという傾向がはっきりしています。1・2年生も、授業とその予習復習がそのまま受験勉強になっているということを知ってほしいと思います。

【教務部】

新学年の良いスタートを切れましたか？

2011年度が始まって約1ヶ月、皆さんの日々の生活は充実していますか？

4月初めに皆さんに、第1中間考査までの大きな課題は、新しい学年にふさわしい生活リズムを確立することだと話しました。3年生はいよいよ受験の年(学年)の始まりです。クラス・自治会の活動やクラブ活動などの入学以来の諸活動に区切りを付けつつ、授業の準備だけでなく受験のための勉強時間も確保し拡大充実させていくことが必要です。2年生は学校の諸活動の実質的な中心として、クラスや自治会の活動・クラブ活動を全力で引っ張る立場になりました。同時に、進路の目標を確立して、より深くなる高校の学習をきちんと身に付けていくことがさらに重要になります。1年生は、高校生になって必要な学習時間も増え、通学時間・方法も変わり生活のリズムが一変した人がほとんどでしょう。早く高校生としての過ごし方をかため、勉学をしっかりとこなすと共に、自治活動やクラブ活動にも積極的に取り組んで、実りのある高校生活を目指すことが大切です。

これら年度初の課題がどの程度こなしているか、まずは第1中間考査の結果によって判断することができます。45分授業は短いからいっそう、「チャイムと同時に授業に入れるように着席・準備できているか?」「宿題は勿論のこと予習や復習は高校生にふさわしい時間と内容で取り組んでいるか?」などのことが問われます。成績に表れます。5月18日の考査初日日まであと約1週間、新学年の学習への手応えがつかめるよう最後の準備を頑張りましょう。そしてテストにおいては、自分の勉学の成果をきっちりと出せるように、正々堂々と受験しましょう。特に新入生の皆さん。高校では欠点を取ると進級卒業が出来なくなる場合があります。平常点につながる課題提出が遅れずにできているか?ということも重要です。日頃から、悔いの無いようにしっかり学習に取り組む習慣を身に付けましょう。

考査の後、体育祭も済んでから、各クラスで懇談があります。考査の結果で学習の成果を確認できて、新しい次の目標を担任の先生と相談できるように、皆が精一杯取り組んでくれることを期待しています。

【国際交流委員会】

双方向の国際交流を目指して!

本校では国際交流が盛んです。短期・長期問わず、地域的にも台湾などのアジア、ニュージーランド、ウイーンなど多岐に渡ります。交流の形も語学研修、音楽交流、異文化体験などいろいろあります。時期も一年中です。

ただし、一部の国際交流は、一方向だけに終わっている現状があります。国際交流は双方向になったとき、真の交流になります。こちらから交流校を訪問し、交流校から訪問される、このような双方向の交流が継続されればされるほど、交流が深くなり、より有意義になります。

今年の国際交流委員会の目標は、双方向の国際交流をひとつでも多く実現させる、です。65期生は昨年12月に台湾から高校生を迎え入れました。そして今年の10月にその訪問を受けた台湾のまさにその高校と交流を修学旅行を通して行います。これがまさに目標に掲げている双方向の国際交流です。ひとつでも多くの双方向の国際交流ができるように努力していきます。

双方向の交流をするのに、今日思い立って、明日実現できるものではありません。将来の交流校候補がみつければ、生徒同士の電子メールの交換、ビデオレターの作成、テレビ会議などから底辺から少しずつ着実に交流をしていきたいと考えています。最終的にお互いを訪問できるところまで持っていければと願っています。多くの生徒の参加を期待しています。

・平成22年9月～7月23日(土)

中国高校生長期招聘事業の第5期生として中国から高校生が本校に留学中。2年のクラスに男子生徒、3年のクラスに女子生徒入り、一年間一緒に勉強しているだけでなしに、クラブ活動にも精を出しています。男子生徒は吹奏楽、女子生徒は硬式テニス・茶道部に所属しています。7月23日に帰国予定です。

・10月25日(火)～28日(金)

65期生(2年生)台湾修学旅行。

・11月6日(日)10:00～17:00

今年も四天王寺ワッソに吹奏楽部が楽隊として参加する予定です。韓国文化に親しむとても良い機会です。参加しなくても、見学するだけでも非常に有意義です。場所:史跡なにわの宮跡(大阪市中央区法円坂)上記以外に、年間3回 音楽科によるハワイ・フナホウ高校とのテレビ会議があります。

【保健部】

Do you know 「あおぞら」？

相談したい人は保健室へ！！

2011年度が始まり、新しいスタートができていますでしょうか？

今年の春は自然の猛威に驚かされ、今も続く余震に悲しい思いをしている人も多いと思います。あなたの周りで、被害に遭われた方はおられませんか？ 根拠のない悪い噂に苦しめられている転校生の記事を見たとき、連日の悲惨なニュースが続く中でも必死に立ち上がろうと努力されている様子に思わず胸を熱くし、心より何らかの形で応援していきたいと思ったのは、私一人ではないと思います。

今年も「あおぞら」は健在です。あなたと一緒に問題解決法を考えていきます。

また、今年度は新しく SC (スクールカウンセラー) の先生にも月 1~2 回程度来校していただけることになりました。相談したい人はまず、保健室の「あおぞら」に申し込んで下さい。保護者の方からの相談も受けつけられますので、詳しくは連絡して下さい。

< 病は気から！ >

「しんどい」は、保健室へ来る人の第一声です。腹痛や頭痛、吐き気、食欲不振、不眠などの自覚症状全てをまとめた便利な(?)言葉です。まず、内科的なものが原因ではないかを考えますが、同時に「気持ちのしんどさはないのか？」も考えて下さい。しんどい気持ちを抑えて我慢ばかりしていると、落ち着きがなくなって、睡眠や食欲の異常など、どんどん深刻になっていきます。

< 我が事として考える >

人は一人では生きていけないのです。誰かと関わって、衝突したりお互いに話し合うことで相手への理解を深め、仲間として支えあっていけるのです。学校は、社会という大きな集団へ出て行く練習の場です。同じ夕陽丘高校の生徒として、もし自分がされたら嫌なことは相手も嫌だし、一人ぼっちも辛いのです。自分にできることは何かをよく考えて行動して下さい。

< 「あおぞら」が大切にしていること >

* **素の顔を出せること**

今の自分を素直に言葉などで表現してもらいたいのです。

* **「そうなんだ！なるほど・・・」と自覚すること**

真剣にその子の「想い」に耳を傾けることを大切にしています。

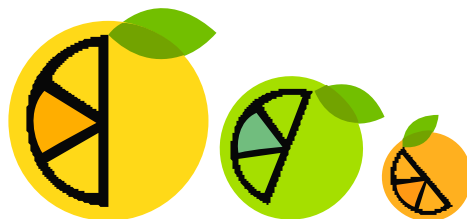
* **「意外と・・・なんだ！」と認識すること**

「あおぞら」では、保護者の方からのお話も聞かれるようになってきました。家と学校で見せる表情とが違っていることもあり、お互いに生徒をより深く理解する上でとても参考になります。

* **「やればできる！」と自信を持つこと**

「あおぞら」で相談をしたからといって、悩みがすぐ改善されるわけではありません。しかし、あなたの痛みはあなたにしかわからないことが多いけれど、自分の悩みや困っていることを他人に話せたという勇気は、今後のあなたの自信になるでしょう。

「あおぞら」は、生徒一人一人が前を向いて
自分の信じる道を歩いていけるよう、
応援をしていきたいと思っています。
泣いていたあなたに、
笑顔がいっぱい見られますように・・・！！



【生徒指導部】より

平成 23年度年間目標

新年度が始まりましたが、生徒指導部が掲げる目標は生徒諸君が充実した学校生活を送る上において、基礎なる大切なものです。日々常に意識しながら学校生活を送ってください。

年間目標

本校生としての誇りと自覚を持つ

夕陽丘の生徒としての義務と責任をしっかりと果たし、長い伝統の上に自分たちも積み重ねてゆくとい強い自覚を持って学校生活を送りましょう。

規則正しい生活をする

社会生活を送る上で時間的な縛りがないところはありません。昨年は年間遅刻総数が 3000 件を切りました。今年度も遅刻数の減少を目指し、新学期最初から第 1 中間まで遅刻指導強化期間を設定し、みなさんには規則正しい生活習慣を身につけてもらいたいと思っています。これから先も遅刻で損することはあっても得することはありません。

思いやりのある行動をする。

昨年度も悲しいことですが、いじめや嫌がらせなどの行為が起きました。人間は皆それぞれ違って当たり前です。他の人のことを尊重し、違いを認め合い同じ夕陽丘の仲間としてみんなが気持ちよく学校生活が送れるように互いを思いやりましょう。

マナーやエチケットを守る

他人に迷惑をかけていることに鈍感になっていませんか？
毎日の生活の中で何気なく行動していることが、実は他の人の迷惑になっていることに気がついていないことがよくあります。特に昨年度問題となった携帯電話についてです。
授業中に使用することは自分にとってもマイナスであるのはもちろん、指導を受けることによる授業のストップで勉強したいクラスの人々の権利を奪ってはいませんか？
携帯電話は大変便利なものです。だからこそ持つ人のマナーが問われます。
日常生活のいろいろな場面でマナーやエチケットを守り、正しい状況判断がきちんとできるように訓練するのが高校生の時期です。

何事にも自ら積極的に取り組む

6月には学校行事の大イベントである体育祭があります。クラス、個人がいろいろな形で参加し、大いに盛り上がってください。誰にでも得意、不得意はありますが、高校生の時期はいろいろなことにチャレンジしてください。そうすることで「人間の幅」ができてきます。受身にならず何事にも失敗を恐れず積極的にやりましょう。

【音楽科】

第7回ウィーン音楽研修旅行を実施

3月21日(月)～29日(火)7泊9日の日程で2年に一度のウィーン音楽研修旅行を実施し、音楽科80名、普通科1名、合計81名の生徒が参加しました。ウィーン及びザルツブルグを訪問し、レッスン受講、シュテファン大聖堂及び楽友協会ホールでの演奏会出演、現地音楽学校との演奏交流、オペラ鑑賞、音楽史跡見学等、非常に充実した内容でした。



生徒の感想「レッスンではわかりやすく的確なアドバイスを頂いて音楽がますます好きになった」「シュテファン大聖堂の響きは音が天から降りてくるようだった」「楽友協会ホールではお客さんが喜んでくださる様子がわかって嬉しかった」「有名な音楽家が実際に過ごした場所を訪れることができ感動した」「一生に二度とないかもしれない貴重な経験ができた」

今後の音楽科行事

- ・5月27日(金)特別公開講座「ヴァイオリンの魅力」15:45～16:45
稲庭 達 氏(元大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター)による演奏
- ・6月11日(土)第147回ピッコロコンチェルティスタ 12:00～
*会場はいずれも本校ヴィオーラホールです。皆さまのお越しをお待ちしております。

【今年度の人事異動】

*転出その他

校長	西出 博行(退職)
国語科	釘田 直久(教育センターへ)
数学科	吉岡 俊治(かわち野高校へ)
数学科	加藤 竜也(泉陽高校へ)
数学科	田口 健司(花園高校へ)
数学科	山口 輝夫(退職)
社会科	浅田 文夫(退職)
理科	柴田 浩之(桃谷高校へ)
理科	渡部 聡之(門真なみはや高校へ)
理科	小松 慎太郎(清水谷高校へ)
音楽科	恩知 理加(教育センターへ)
家庭科	梶原 雅美(退職)
実習助手	足立 伯恵(旭高校へ)
事務長	山西 孝雄(退職)
主査	野田 奉秀(退職)

*転入など

校長	杉山 友重(金岡高校から)
社会科	菱川 綾(新規採用)
数学科	中山 剛志(西成高校から)
数学科	富士 雅章(泉北高校から)
数学科	村田 恵里果(新規採用)
理科	蔵谷 和弘(松原高校から)
理科	山口 勝久(かわち野高校から)
音楽	丸 佳子(八尾支援学校から)
国語科	土井 くみ子
社会科	九星 亨
数学科	伊藤 智子
数学科	落合 毅
事務長	村上 浩
主査	松田 博子

編集後記

新年度が始まって、「今年こそ目標を持ってきっちりやろう」などと考えますが、一か月も経つとすっかり忘れてしまいます。「その時点でまた、**目標を再確認**すればいいのだ」と最近は思っています。

もう一つ、**思い込みは新しい視点を生まない**ということもいろんな場面で体験し、考えさせられることです。

